

故 高崎 宏先生の逝去を悼む

田 中 俊 一*

静岡大学教授高崎宏先生は昭和 60 年 6 月 8 日未明に心不全のため急逝されました。

先生は昭和 26 年東京大学第一工学部計測工学科を卒業、引続き特別研究生として大学院に進学、29 年東京大学工学部の助手になられました。昭和 34 年静岡大学に移られ、講師、助教授を経て 40 年教授（工学部精密工学科）、48 年からは同大学電子工学研究所で精力的に研究、教育にあたられていました。

専門は応用光学、とくに光学計測です。私は大学が同期で、学部卒業後の約 10 年間は研究室も一緒でした。先生は大学院時代は生理光学に興味をもち視感測光装置の開発を行ない、また助手就任以後は ADP 関係の研究に移って結晶の研磨や結晶を用いる偏光解析装置の開発にあたられました。この時代に私がいつも感心したのは、すぐれたアイデアとそれを実現する人並外れた実験技術でした。自宅の風呂桶で作ったという結構大きな ADP 単結晶や、振幅比と位相差の二つを 90° 位相の異なる変調を使って分離計測する偏光解析装置など見事なものでした。偏光解析装置関係の研究は博士論文になるとともに、昭和 36 年の応用物理学会光学論文賞、54 年には発明協会の発明賞の対象になりました。

その後先生はモアレの研究に進まれ、平らに近い面から急な傾きをもつ面まで鮮明度の高い縞を表わす方法、正確な等高線を観察する方法、傾斜の急な面に現われる不要な縞を消去する方法などについて綿密な検討、対策を加え、実に美しいモアレ縞の作成に成功されました。この研究によって昭和 50 年知恩会斉藤奨励金、51 年新技術開発財団の市村賞（功績賞）、54 年アメリカ写真測量学会の会長賞を受けておられます。引続き安定化レーザーの仕事に取り組み、横ゼーマンレーザーの単一縦スペクトルの二周波直交成分強度比または差周波数を基準とする安定化レーザーおよびこれを使った光ヘテロダイン干渉計の応用について研究を進められていました。

先生の研究の特徴は、そのいずれもが卓抜した着想と本質をとらえた解析の下に綿密な実験を行なって実用化装置を開発することで、そのまま製品となった装置も数多いとうかがっています。またこのような研究の進め方を身につけた数多くの優れた人材を育成されておられます。

先生は本誌光学の編集委員長をされた時代に関西、北海道特集号をはじめ企画され、各地区それぞれに特徴ある多くの研究に発表の場を作るとともに、日本全体の光学研究の発展を強く希望しておられました。

大学卒業後はじめて手掛けられ、またアメリカ NBS 留学時代にもたずさわられた生理光学、測色学など、これから新しい研究を通してますますのご活躍を期待しておりましたのに、本当に残念なことでした。

ご冥福を心からお祈りいたします。